

1 研究構想

(1) 研究テーマ

未来を創る「探究心」のある児童の育成
～カリキュラム・マネジメントを通じた「SDG s」の探求～

(2) 目指す児童像

- ①自ら課題を発見し、課題解決に向けた粘り強い探究活動を通して、自分の考えを発信することができる児童（たくましい子）
- ②『誰一人取り残さない心』で協働的な学びを通して、自分も他人も大切にできる児童（心豊かな子）

(3) 研究仮説

<研究仮説>

- ①「探究的な学習」の学習方法を確立し、適切な「学習環境」があれば、探究心のある児童を育成することができるであろう。
- ②「SDG s」の探究を通して、自分たちで何ができるかを考える学習を行えば、探究心のある児童を育成することができるであろう。

(4) 全体構想図

- 時数の弾力化
- カリキュラム・マネジメント
- 探究的な学習
- 協働的な学び



2 研究内容

(1) 研究組織

- 授業研究部
- 環境整備部
- 調査研究部

(2) 研究の流れ

- ①実態調査（アンケート）
- ②理論研修（探究的な学習、講師招聘、ESD カレンダー作成、カリキュラム・マネジメント）
- ③実践（全校朝会・学校だよりによる SDGs 意識付け、体験活動、交流、探究的な学習過程の実践、発表、行政への提案）
- ④まとめ・発表

(3) 取組

- ①指導者を招聘しての校内研修会

- ②全校朝会・学校だより・掲示物による SDGs 意識付け
- ③ホールスクール・アプローチ
- ④外部機関との連携【SDGs 応援団】
(地域・行政・市民活動センター・ポリビア・獨協大学・生態系保護協会)
- ⑤他教科との関連 (SDGs17 の目標を授業ごとに位置付ける)
- ⑥探究的な学習過程の浸透 (課題発見→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現)
- ⑦まちづくりへの参画 (草加市まちづくり課市民活動センターへの提案)

3 成果と課題

1 年 生	<p>(1) 成果</p> <p>○児童の考えによる土の植え替えは、期待と不安の両方の気持ちを児童に与え、朝顔の時よりも、更に、興味をもって観察に行くようになった。「今日は、〇〇さんの芽がでていました。」と喜び合う姿が見られ、最終的には、全員のチューリップが美しく咲き、自分たちの考えで育てたという達成感を味わうことができた。</p> <p>○タブレットと絵日記を併用して、観察に使用することで、友達に自分の思いを伝える時に、実際の写真を見せたり、指で指したりしながら、説明することができ、活動に広がりが見られた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>○児童の視点からの授業展開は、予定時間や準備しておいたことに変更が生じることがあり、時間や準備の調整が必要となる。</p>
2 年 生	<p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科等横断的学びができた。 ・カリキュラム・マネジメントを行うことで、他教科や他単元と関連させ児童にとって必然性のある学習ができた。 ・SDGs を意識付けすることができた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの連続…今年度限りの学習とするのではなく、継続して取り組んでいきたい。
3 年 生	<p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町探検やフィールドワーク等の体験によって、児童が草加市の歴史、産業、自然・環境を身近に感じ、主体的に活動に取り組むことができた。 ・せんべい焼き体験を通して、伝統産業に携わる人々の努力や願いを感じ、発表内容が深まった。 ・歴史民俗資料館見学を通して、調べ学習では学べなかったことを体験的に学習することができた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習発表の際、学年の発達段階を考慮した発表形式になっていたか。 ・情報量が多くなり、情報を整理したり分析したりすることが難しい児童が多かった。

4 年 生	<p>(1) 成果</p> <p>これまでの学習を通して、福祉についての児童の関心が高まってきた。UD 講演会の後に行った社会科見学では、最近できた清掃工場の UD として工夫されている階段の二重の手すりや、低い位置にある多目的トイレの開閉ボタン等を見つけ、喜んでいた。一方、古い建物である浄水場では、階段が狭く、一段の段差も高く、手すりもないことに気づき、UD で建築することの良さを実感することができた。</p> <p>(2) 課題</p> <p>1 学期に行った身体障がい者に対する学習は、児童にとって分かりやすく意欲的に学習に取り組むことができた。2 学期になりより身近にある福祉についての学習を始めたが、児童にとっては身近な福祉について捉えにくく、イメージが難しいようだ。いかに身近な福祉に気づかせ、福祉を自分事として捉えさせていくかが今後の課題である。</p>
5 年 生	<p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用を通して、タイピング能力やスライド作成など ICT 活用能力の向上を図ることができた。 ・国語科の弾力化を通して、プレゼンテーション能力の向上を図ることができた。 ・国語科の弾力化を通して、総合的な学習の時間で児童が自分たちで調べたいことを調べるための十分な時間を確保することができた。 ・ボリビアとの交流という学習環境を整えたことで、「ほかの団体などはどうなのだろう」という探究心のある児童を育てることができた。 ・中間発表に向けて協働的に活動したことを通して、自分や友だちの考えを受け入れる児童を育てることができた。 ・埼玉県学力・学習状況調査において、前年から伸びた子の割合が 89.5 となり、県平均より大きく上回った。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体との日程調整が難しかった。 ・児童による ICT 活用能力の格差が開いてしまった。
6 年 生	<p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークを効果的に取り入れることにより、草加市の現状をより深く知るとともに、児童の「知りたい」「学びたい」意欲をより引き出すことができた。 ・児童主体となって学習を進めることにより、地域の一員としての自覚をもつことができた。 ・埼玉県学力・学習状況調査において、前年から伸びた子の割合が 83.9 となり、県平均より大きく上回った。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットへの依存性が高く、課題解決の手段が単一的である。 ・現状から課題を発見する能力が低く、調べたことをもとに新たな課題へ繋げることが難しい。 ・目的や場面に応じた調べ活動の経験不足。

ひまわり学級	<p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none">・書籍やICTを活用し、それぞれが興味を持った目標についての問題点や課題点を考えグループで話し合い発表することができた。一人では難しいことも異学年で協力し、学ぶことで自信が付き主体的な学びへとつながった。・課題に対して具体的に実践する方法を考え発表ができた。・教師主導の学習ではなく、映像やICTを使いながら自分でできることを考えた。(着られなくなった洋服を使い「ナプキンやバッグを作ろう。」や「いらないタオルを使って、雑巾にしよう。」や「ペットボトルキャップを使い世界を救おう～キャップを使い遊ぶ～」) 子供も楽しみながら、生活の身近なこととして感じ楽しんで活動ができた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none">・授業中や制作したその時だけで活動が終わってしまい、日常生活で意識をすることが課題である。
--------	---